

2021年3月期 決算説明資料

極東開発工業株式会社



極東開発のグループ構成

極東開発工業株式会社

特装車事業

85.0%

■ 製造・販売・サービス

(グループ会社)

国内2社：日本トレクス(株)、北陸重機工業株式会社(株) (グループ会社) 国内4社
海外4社：中国、インドネシア、インド

■ サービス・中古車販売

(グループ会社)

国内3社：(株)エフ・イ・オート、振興自動車(株)、
井上自動車工業(株)

■ 調達

(グループ会社)

海外1社：中国

環境事業

9.4%

■ リサイクル施設の建設

■ 運転受託・メンテナンス

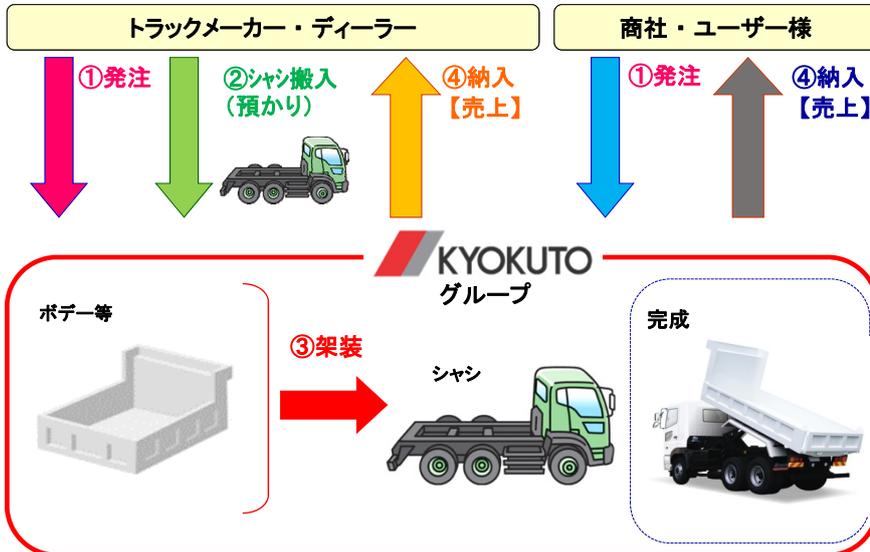
不動産賃貸等事業

5.6%

■ 立体駐車装置、コインパーキング

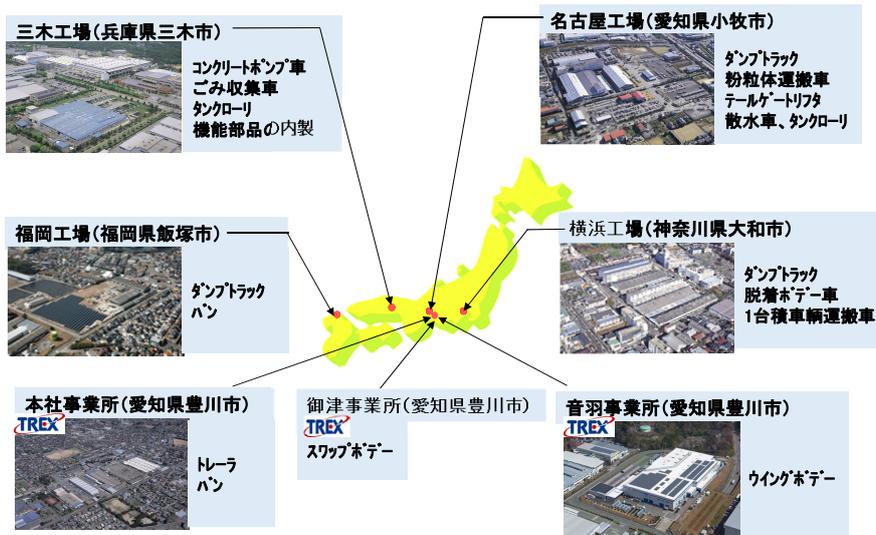
(グループ会社) 国内3社

特装車事業



コンクリートポンプ車等一部の製品についてはシャシは買取。

国内生産体制



グループ主力製品



赤字:シェア1位製品
青字:シェア2位製品
(2021年3月期現在)



コンクリートポンプ車



粉粒体運搬車



トレーラ



1台積車輛運搬車



タンクローリ・散水車



テールゲートリフト



ダンプトラック



脱着ホデー車



ごみ収集車



ウイングホデー車

5

海外生産体制



【インド】SATRAC ENGINEERING PRIVATE LIMITED



ダンプトラック
トレーラ
タンクローリ

(グループ化: 2020年9月)

【中国】極東開発(昆山)機械有限公司



ミキサートラック

(操業開始: 2005年4月)

インド工場

昆山工場

上海

インドネシア工場

【インドネシア】PT KYOKUTO INDOMOBIL MANUFACTURING INDONESIA

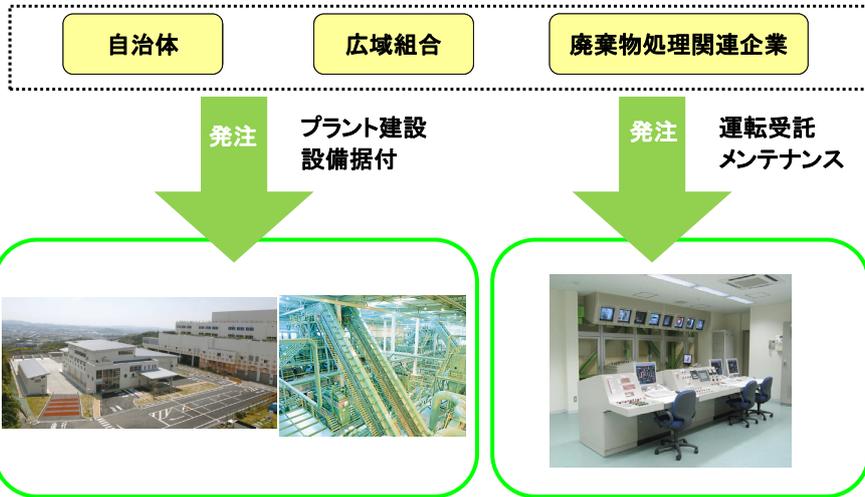


ダンプトラック
ミキサートラック
テールゲートリフト

(操業開始: 2014年2月)

6

環境事業

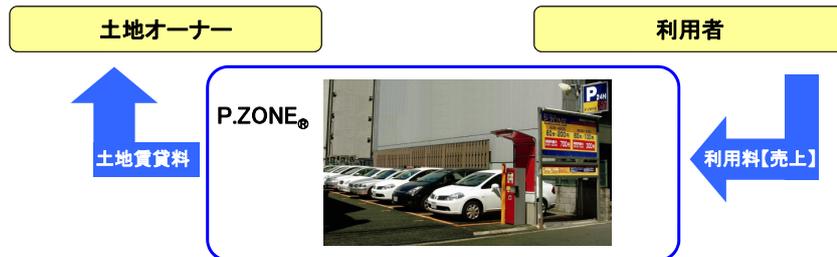


不動産賃貸等事業

【立体駐車装置】



【時間貸駐車場】



新型コロナウイルス 感染症の影響について

【当社グループの方針】

お客様、地域の皆様、グループ従業員の安全を最優先としながら
事業活動の継続に努める。

【事業の状況】**1. 特装車事業**

- ① 感染対策を実施しながら生産活動を継続
- ② 商談の遅延が見られたものの、全体としては堅調に推移
- ③ ITを活用したテレワークなどによる受注の確保

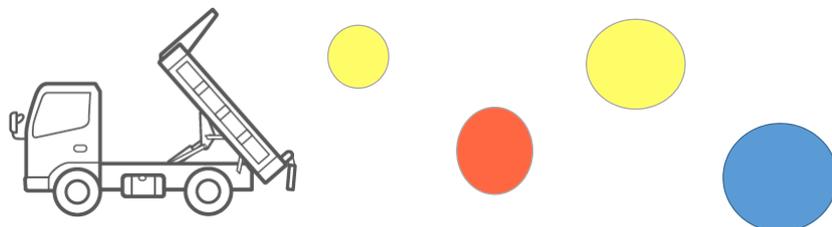
2. 環境事業

- ① プラント建設では対策を行いながら新規物件の受注活動と
建設工事を進めた
- ② メンテナンス・運転受託等のストックビジネスは好調

3. 不動産賃貸等事業

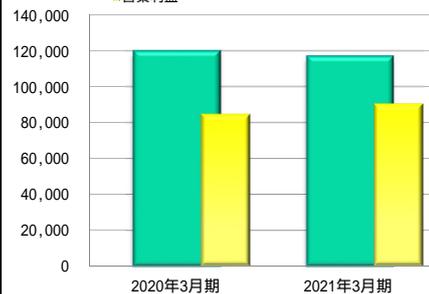
- ① コインパーキングは、各事業地において稼働率が低下する状況が
続いたが、トータルコストの削減を行い利益の確保に努めた

2021年3月期 連結決算実績



2021年3月期 連結決算

売上高(百万円) ■売上高
営業利益 ■営業利益



営業利益(百万円)

売上高(前期比)

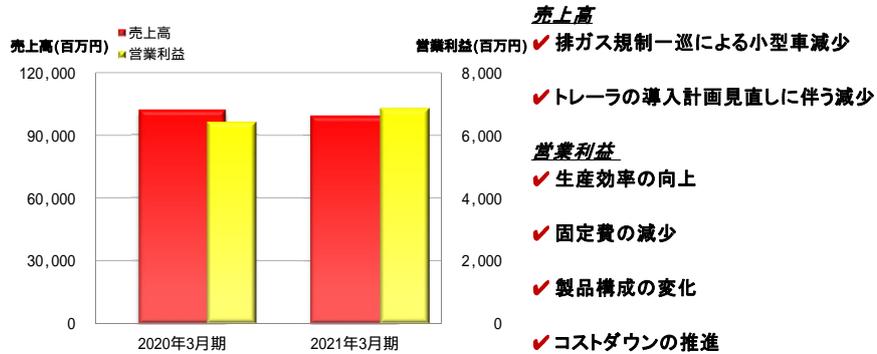
◆特装車事業	△2,525百万円	△2.5%
◆環境事業	△444百万円	△3.9%
◆不動産賃貸等事業	△57百万円	△0.8%

営業利益(前期比)

◆特装車事業	+463百万円	+7.2%
◆環境事業	+181百万円	+10.0%
◆不動産賃貸等事業	△2百万円	△0.2%

	2020年3月期	2021年3月期	前期比	
売上高	120,173	117,170	△3,003	△2.5%
営業利益	8,493	9,080	+586	+6.9%
経常利益	8,675	9,253	+577	+6.7%
親会社株主に帰属する当期純利益	6,073	6,774	+701	+11.5%

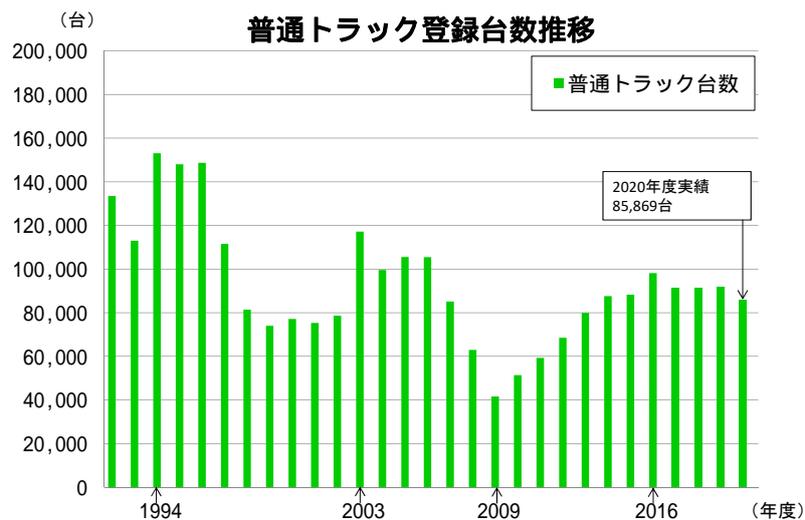
2021年3月期 特装車事業



	2020年3月期	2021年3月期	前期比	
売上高	102,076	99,551	△2,525	△2.5%
営業利益	6,417	6,880	+463	+7.2%

13

2021年3月期 特装車事業(市場環境)



14

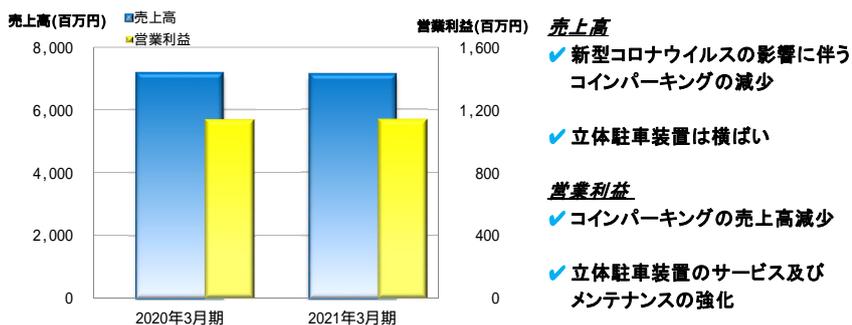
2021年3月期 環境事業



	2020年3月期	2021年3月期	前期比	
売上高	11,473	11,028	△444	△3.9%
営業利益	1,813	1,994	+181	+10.0%

15

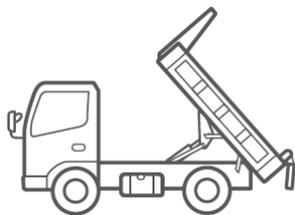
2021年3月期 不動産賃貸等事業



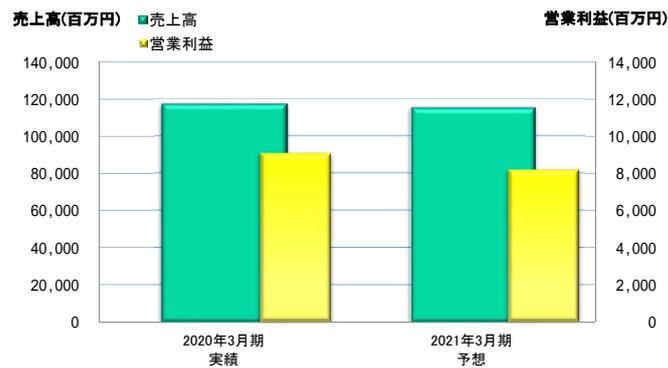
	2020年3月期	2021年3月期	前期比	
売上高	7,189	7,131	△57	△0.8%
営業利益	1,142	1,140	△2	△0.2%

16

2022年3月期 連結業績予想

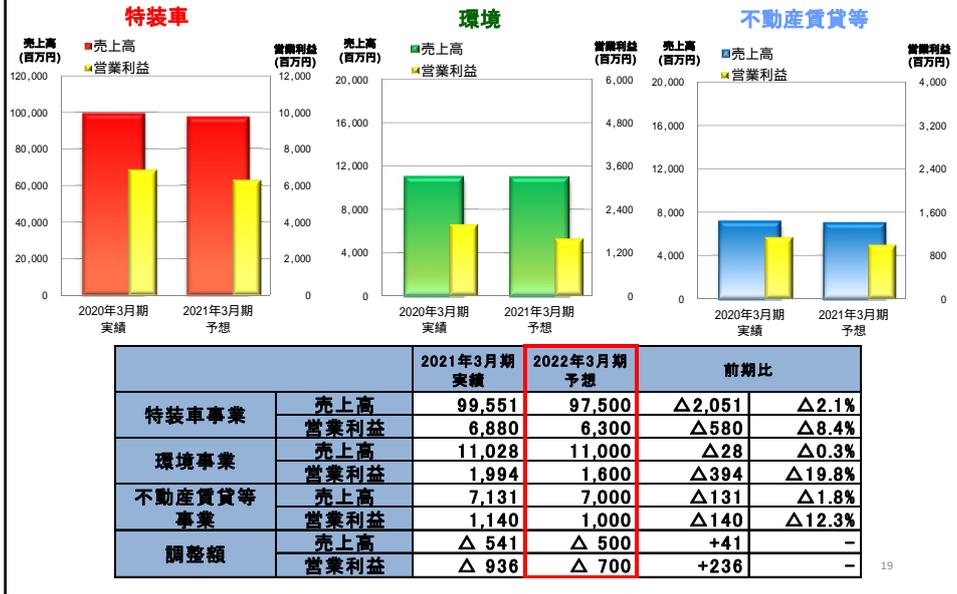


2022年3月期 連結業績予想

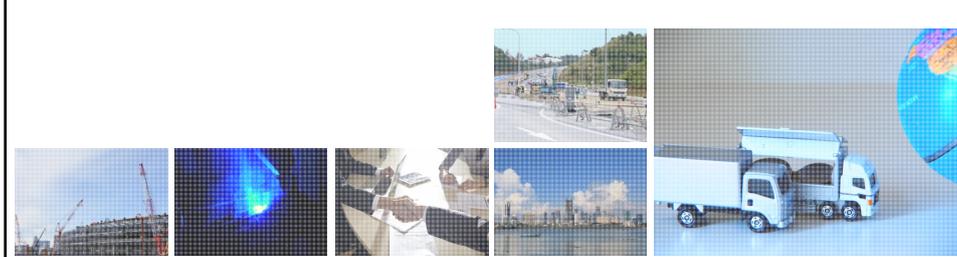


	2021年3月期 実績	2022年3月期 予想	前期比	
	売上高	117,170	115,000	△2,170
営業利益	9,080	8,200	△880	△9.7%
経常利益	9,253	8,400	△853	△9.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	6,774	13,500	+6,726	+99.3%

2022年3月期 セグメント別予想



今後の取り組み



生産性の向上と利益体質の強化 ～設備投資効果の最大化



直近年度までに実施した設備投資の運用と新たな設備投資により
売上の拡大・生産性向上を図る



21

設備投資額・減価償却費・研究開発費



創出したキャッシュフローは持続的成長に向けた設備投資・戦略投資に積極活用

設備投資・戦略投資
3カ年累計 200～300億円

(参考) 2017年3月期～
2019年3月期の実績



	2020.3月期	2021.3月期
設備投資	39億円	39億円
減価償却費	25億円	26億円
研究開発費	14億円	15億円

固定資産の譲渡及び特別利益(固定資産売却益)の計上



以下の固定資産を譲渡し、2022年3月期の連結決算において特別利益を計上する見込み

譲渡の理由

賃貸契約の期間満了に伴い、資産の流動化と

経営資源の有効活用を図るため

資産の内容および所在地	譲渡益
土地 計 69,874.24㎡ 東京都西多摩郡	約130億円

本件譲渡益を**本業の強化による収益性の確保と企業価値の向上**に活用します。

今後の方針

- ① **特装車事業の強化**
- ② 中長期的な事業拡大に向けた**成長戦略のための投資**
- ③ **BCP対策**

23

将来の収益源の創出 ～インドSATRAC社の全株式を取得



SATRAC社 本社工場外観

【概要】

商号 SATRAC ENGINEERING PRIVATE LIMITED
所在地 インド・カルナタカ州・ソンプラ工業地域
(ベンガルール市近郊)
代表者 取締役会長 細澤幸広(当社 執行役員)
取締役社長 MRINAL BANTWAL
事業内容 ダンプトラックボデー、各種トレーラ等の製造販売
設立 1997年11月
取得日 2020年9月9日



▶ SATRAC ENGINEERING PRIVATE LIMITEDの全株式を2020年9月9日付で取得しグループ化(完全子会社化)。

同社は、インド南部に所在する特装車メーカーで、高い品質と技術力、サービス体制等によって、インド国内における大手トラックメーカーや主要なトレーラユーザーおよび物流事業者のリーディングサプライヤーとして信頼を得て、業績を伸ばしている企業。

本グループ化により、インド南部における優れた**生産拠点と顧客を確保**、インドにおける**事業基盤をさらに強化**し、同国における**特装車事業を拡大**。

24

将来の収益源の創出 ～新分野の事業確立



グループの強みを活かせる既存事業周辺・応用領域にターゲットを絞り、事業成長に注力
成長を加速させるため、M&A・提携も積極検討



配当政策



配当に関する基本方針

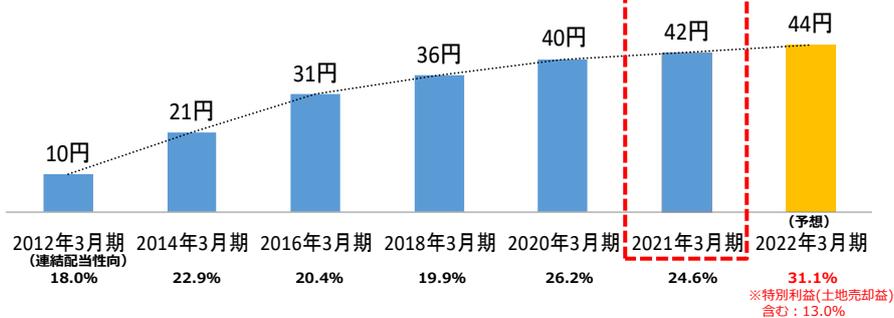
当社グループでは、株主還元を経営の最重要政策の一つと考え、業績の向上と財務体質の強化をはかりながら、将来の事業展開、経済情勢等を勘案して、株主の皆様のご期待にお応えできるよう努めています。

2021年3月期配当について、
期末配当金を1株当たり 18円⇒24円に修正。
これにより、年間配当金は 36円⇒42円となる予定。

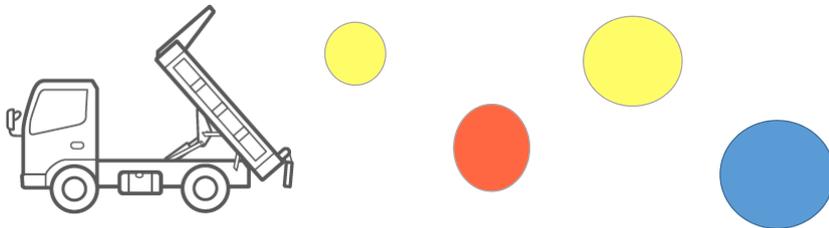
2022年3月期配当予想について、
年間配当金44円を予定しております。

株主還元
安定的・継続的な配当を重視
配当性向 30%前後目安

一株あたり年間配当額の推移



TOPICS



27

TOPICS① 画像認識AI搭載の安全支援システム「KIES(キース)」を発売

2020年8月31日発売

【特長】

- ・作業現場のカメラ映像から危険状態を判定することで積込装置に人が巻き込まれるリスクを軽減した安全支援システム
- ・高性能専用カメラ(バックアイカメラ兼用)と独自のAI画像認識技術により「人」を高精度で検知することで作業時の危険を察知し、積込装置を自動停止
- ・周囲の環境や状況および明るさによる影響が少ないため、場所や収集物、時間を問わず検知を可能としているほか、「人」全体を把握して検知を行うことから、特別な専用装備を必要とせずに作業者の方はもちろんのこと、作業者以外の方も検知を行うことが可能

➡ 収集時の作業性を損ねることなく、より高度な安全性を確保することができる
全く新しい安全支援システムのご提供



(画像は検知イメージ)

28

TOPICS② 車両管理支援システム「K-DaSS®」のアプリ・Web展開



・特装車の稼働状況を記録・蓄積する当社独自のIoT基盤を利用した管理支援システム「K-DaSS (※1)」の、ごみ収集車、テールゲートリフタ、パワーゲート等のユーザー様向けのアプリおよびWebの展開をスタート。

(※1) K-DaSS : ケーダス (Kyokuto Data Sharing Service)

・事前のID登録を行っていただくことにより無料でのご利用ができ、ご登録された車両の「統計情報」・「移動履歴」・「車両管理」・「稼働状態」・「メンテナンス情報」の確認が可能。

・「K-DaSS」で確認できるデータを活用することにより、ドライバーの方と車両管理者の方の間での情報共有と、「収集業務の効率化」・「日報作成業務の省力化」・「車両メンテナンスの合理化」の3つのメリットを実現。

・同技術をパワーゲート(G型・CG型(※2))ユーザー様向けにも

展開をスタート。(※2) G型 : 後部格納式・CG型 : 床下格納式

➡ 「K-DaSS」の更なる構築および展開を通じ、「つながる特装車(コネクティッドSPV(※3))」の取り組みに注力し、お客様へのより一層の利便性のご提供と共に、更にフレキシブルなサービス体制の強化を図る。

(※3) SPV : Special Purpose Vehicle

2020年7月より展開



「K-DaSS」アプリ・Web イメージ

TOPICS③ 新型コンクリートポンプ車
「ピストンクリート® PY120B-26D」を発売



【特長】

・コンパクト設計

従来機(ピストンクリートPY115A-26C)に比べ、ホイールベース(W.B)及び全長を400mm短縮(W.B 5,000mm、全長 9,460mm)。

・軽量26m M型4段屈折ブームを採用

ブーム・配管構造の変更で大幅な軽量化を実現した26m級ブームを採用。

・実用域での圧送能力を大幅に向上させた高性能ポンプユニット
メインポンプの制御方式を電気制御とすることで、最大出力が従来機に比べ約35%アップし、実用域での圧送性能を大幅に向上させた高性能ポンプユニットを搭載。

➡ 都市部をはじめとした多様な現場に対応することが可能な、ピストンクリートシリーズの最量販機種種の改良により、コンクリートポンプトッパシエアの確保を図る。



2020年11月24日発売



本資料の予想は発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。
実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。
本資料の著作権は極東開発工業株式会社に帰属します。いかなる理由によっても、当社に許可無く
本資料を複製・配布することを禁止します。